

2003 年度 委員会活動成果報告

(2004 年 3 月 10 日作成)

委員会名	作品評価小委員会	主 査 名：宇野 求
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築計画委員会	委員長名：服部 岑生
設 置 期 間	2003 年 4 月 ~ 2004 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	本小委員会は、建築作品を通して計画研究の真価を問い直し、設計方法論の有効性を求め、新しい計画学の枠組みを構築しようとするものである。具体的な活動は、建築作品および建築計画学を開かれた場において評価する可能性を探るためのさまざまなクライテリアと方法を検討し、そのいくつかを試行するものである。	
委員構成 (委員名(所属))	<p>(委員構成の考え方、分野別構成、地域性、公募制等) 計画、設計、歴史に軸足を置く大学内外の設計実績のある学識者、またできるだけ全国的に活動している委員で構成した。</p> <p>主査：宇野求(千葉大学) 幹事：田所辰之助(日大) 委員：上野 武 (千葉大), 大川 信之 (建築家) 岡河 貢 (広島大), 小島 収 (近畿大) 重村 力 (神戸大), 槻橋 修 (東北工大) 橋本 純 (編集者), 藤井 正紀 (建築家) 安田 幸一 (東工大)</p>	
設置 WG (WG 名：目的)	なし	
2003 年度予算	66,000 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	<p>(年間スケジュール)</p> <p>4 月 委員会たちあげ(10 名) 5 月 メンバー構成、運営の検討(6 名) 6 月 新年度第 1 回計画委員会をうけて、第 1 回委員会(web 上)開催 7 月 最新の現代建築を題材として、クリティクス/クライテリアを設定 12 月 研究シンポジウム開催(委員参加 9 名/参加者 50 名) 3 月 「建築雑誌」に委員会活動レポートを掲載/活動報告書を取りまとめ作成 本委員会に活動報告書(書類)提出</p>
得られた成果	<p>(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無)</p> <p>今年度活動の中核に位置付けたシンポジウムでは、建築作品を評価する際のさまざまな価値基準について議論し、作品評価をめぐる複眼的な視点を提供するとともに、新たな評価指標の確立を目指して意見を交換した。建築をめぐる外的状況の変化は当然のように、作品評価におけるクライテリア、評価主体の刷新を求めてきている。変貌をつづける現代世界に対応できる、建築の新たな価値を創出していくためには、こうしたクライテリアや評価主体もまた同時に、更新・再定義されていく必要がある。シンポジウムでは、現代建築が置かれている今日の状況をレヴューしつつ、広く社会的観点から、建築が本来に備えている価値統合的な性格について、またその現代的な可能性をめぐって議論がおこなわれ、成果として、一定のコンセプトの抽出作業が実施され報告書としてまとめられた。</p>
目標の達成度	(当初の活動計画と得られた成果との関係)

	<p>100 パーセント</p> <p>新委員会の活動方針とコンセプト構築のための公開討論を実行し、多くの参加者をえた。また、活動内容を「建築雑誌」で広く紹介するなど、本格的な活動の準備年度と位置付けた目標はすべて達成された。</p>
その他評価すべき事項	<p>大学などアカデミックな機構内にとどまらず、これからの時代の社会における建築のクライアントを議論して、学会が開かれていくことに貢献をしたと考えられる。</p>